

神奈川学園中学校

算数

問題の構成を若干変更し、**4**で対話式の問題設定で出題します。高大接続改革でも課題となっている読解力、条件を整理する論理的思考力を問う問題です。その分、**2**と**3**は出題数を1問ずつ減らします。**1**で計算力を確認し、**2**と**3**は独立の文章題で、**3**は一部誘導的な設問も出題します。大問は**5**と**6**の2題出題し、1題は途中の式や考え方も解答する問題です。一部問題構成は変わりますが、全体の出題数は20問程度、問題レベルも2018年度と同水準で、いずれも大きな変更はありません。まず、基礎的な問題で着実に得点できる力をつけ、そのうえで応用的な力を伸ばしてほしいと思います。

国語

全体の構成、配点などについては、2018年度までの傾向と変わりません。最初に漢字や語句、ことばの使い方などに関する問題が数題続きます。その後、小説の読解問題、説明文の読解問題がそれぞれ1題ずつあります。読解問題の文章の長さは、それぞれ文庫本にして4～5ページ程度です。漢字は小学校6年間で習う漢字、またその音訓の範囲を超えないように出題します。小説・物語文の読解は、登場人物の心理・心情をつかむことを中心に出題します。説明文は話の筋道をきちんと追い、筆者の言いたいことを正しくつかむことがポイントです。読解問題については書く力も見ます。

理科

すべての分野にわたって、実験・観察をもとにした出題に大きなウエートを置くことは変わりません。実験・観察といっても、出題する実験・観察をすべての受験生が経験しているとは限りません。そこで問われるのは、原理・原則から出発して論理を組み立て、法則を見つけて物事を考えていく力です。計算を伴う問題も出題しますが、その際に大事なものは、数学的計算力そのものというより、与えられた理科の問題を計算式にできるかどうかということです。計算そのものは、それほど難しい問題にすることはありません。記述問題の出題に関しても、例年と同じレベルでの出題を予定しています。マスコミなどで取り上げられている理科学的な事柄についても、日ごろから関心を持って見ておいてください。

社会

地理分野は、日本の各地方の特色について、それぞれの地方の自然環境(地形や気候など)、農林水産業、工業、貿易、都市などを出題します。また、日本の産業などと特に関係の深い国についても学習しておきましょう。歴史分野は、大問を2題出題します。範囲は戦後の占領政策の終了までとします。公民・総合分野では、日本国憲法、日本の政治、戦後から現在までの日本と世界などを出題します。ここ数年間に国内外で起きた大きな出来事についても学習しておきましょう。各分野とも地名・人名・用語などは、正しい漢字で書くことを心がけてください。

鎌倉女学院中学校

算数

自分で問題を解決できる力を育てることを主眼としています。そのため、まず、基本的な計算力や分析力を養うことが大切です。そして、基本的能力をフルに活用し、自分で新たな問題を発見して解決する意欲を身につけましょう。出題は「計算問題」「穴埋めⅠ」「穴埋めⅡ」「大問Ⅰ」「大問Ⅱ」のパターンで行っています。分配法則や結合法則を上手に使う工夫して解くものも、直観力に期待するものもありますが、冷静に考え、着実に解いてください。

国語

例年、漢字読み書き、言語問題、長文2題（物語、説明文）が出題パターンです。漢字の書き取り問題は、はね、とめ、字としてのバランスに気をつけて、ていねいに書きましょう。文章は長めなので、日ごろから読書を心がけ、読むことを好きになっておくといよいでしょう。設問をよく読み、問いの趣旨を理解して解くようにしてください。生活のなかで気になることばがあったら意味を調べ、自分のことばの世界を増やすように心がけましょう。

理科

物理・化学・生物・地学の全分野から出題し、配点は各分野とも約25%ずつで構成しています。限られた時間のなかで、いかに時間のロスをなくして確実に正解にたどり着けるかがポイントです。設問に「漢字で…」「小数で…」などの指定があるときは、それ以外の解答は不正解で、中間点は与えないので注意しましょう。問題文から必要な数値を取り出して、正しい数式を作る力、問題文の情報を図や式に整理する力をつけてください。

社会

地理・歴史・公民の3分野から、ほぼ3分の1ずつの出題です。地理分野の事柄でも、歴史・公民的に問われることもあります。物事をさまざまな視点から考えられるようにしましょう。また、新聞やニュースからの知識、資料を読み取る問題も出題されるので、日々の学習に地図やグラフを活用しましょう。教科書に載っている地名・人名・用語などは、漢字で書けるようにしてください。

カリタス女子中学校

算数

①は小問の集まりで、基本的な力を測る問題をいろいろな分野から出題します。たとえば、計算問題、割合、比、規則性を読み取る問題、図形、場合の数などです。②以降は基本的な問題に加えて応用問題も出題します。そのなかには、ただ公式を当てはめて解くのではなく、基本的な知識を用いて、どのようにすれば問題を解決できるかという思考力を必要とする問題もあります。解答形式は、①は答えのみを答える問題ですが、②以降は考え方や途中の式などを書く問題もあります。その問題では、正解を答えられなくても、考え方の方向性が正しく、計算についても途中まで正しい場合は途中点を与えることがあります。

国語

各回とも説明的文章と文学的文章の2題構成です。文章はそれほど難度の高いものではありませんが、速く正確に読み解く練習が必要です。設問は、記号問題や抜き出し問題のほかに、記述問題を必ず出題しています。設問で求められていることを正確にとらえ、解答に必要なポイントを的確にまとめる練習をしてください。記述問題の採点では、解答した内容に応じて部分点をつけています。また、各回とも漢字（読み・書き）の問題は全体の15%程度の割合で、小学校で学習する範囲から出題します。記述問題で誤字・脱字があった場合には減点します。また、ことばの知識や文学史などに関しても、出題することがあります。

理科

基礎的な事柄が身についているか、自分で考える思考力を持っているかを測るために、基本的な知識を答える問題と、具体的な実験結果や観察の内容から、自分で考えて答えを導き出す問題の二つのタイプの問題を出します。十分な知識を身につけるとともに、実験や観察から得られた情報と知識を組み合わせて、科学的に考える習慣をつけてください。ふだんから理科に興味を持ち、自分の知識を使って、身近な生き物や現象について自分で考える練習をしておくといよいでしょう。分野ごとの配点は、物理・化学分野が約60%、生物・地学分野が約40%です。また、力のつり合い、または電気をテーマとした問題を必ず出題します。

社会

受験生の皆さんの知識・理解・思考を問うことを目的として問題を作っています。具体的には、①基礎的な知識や理解、②初めて見るデータから傾向や現象を読み取る力、③初めて知る事柄や初見のデータから読み取ったことと、あらかじめ身につけておいた基礎的な知識や理解とを結びつけて考える力、④既得の基礎的な知識や初見のデータに基づいて自分なりの考えを練り広げ、それをわかりやすく記述する力、などを問います。また、⑤受験生の皆さんが、新聞やテレビで盛んに報道されているニュースについて知識や理解を持ち合わせているか、日本または世界で話題・問題となっている出来事や現象について興味・関心を持っているか、ということを知りたいと考えています。50点満点の内訳は、地理的分野が約20点、歴史的分野が約20点、公民的分野が約10点です。本校の過去問をできるだけたくさん解いて、それぞれの問題の意味や、わたしたちの出題の意図をじっくり考えてみてく

ださい。

湘南白百合学園中学校

算数

計算、小問、グラフ、文章問題、図形が出題範囲です。図形の問題は平面図形・空間図形ともに必ず出すので、過去の問題などで練習するのが有効です。

国語

文章問題は、小説 1 題 (30～40%の配点) と、説明文もしくは随筆 1 題 (30～40%の配点) です。ことばの問題 (書き取り、文法など) も出題範囲です。記述問題 (100 字を超える場合もあり) では、中間点を取っています。

理科

生物分野が 30%、物理・化学分野が 25%ずつ、地学分野が 20%の出題です。基礎的学力・思考力・観察力が身につけているかに加え、科学への好奇心を見るという狙いで出題します。計算問題も出題するので、練習しておくことが肝心です。

社会

地理 (45%前後)、歴史 (45%前後)、公民 (10%前後) の各分野から出題します。各分野の融合問題になる可能性もあります。統計・図表・グラフなどの資 (史) 料を見て内容を読み取れるようにしておき、写真や地図などにも留意しましょう。小学校の教科書に漢字で書かれている用語は、漢字で書けるようにしましょう。

聖セシリア女子中学校

A方式

基礎事項・重要事項を中心に出题します。単なる知識の有無を問うだけでなく、思考の過程を重視し、それを点数化できるようにします。なお、一次・二次・三次試験とも出題傾向は同じで、同程度の問題です。

算数

大問は5題程度で、四則演算（逆算・割合・諸単位の計算を含む）、小問（特殊算を含む）、図形（角度・面積・体積など。定規・コンパスは不要）、グラフ、規則性の問題などを出題します。

国語

大問は4題程度で、漢字などの言語事項問題が1題、短文を作る問題が1題、長文読解が2題程度です。漢字では読み・書きともに出題し、短文を作る問題では、ことばを使いこなす力を測ります。長文読解の2題は文学的文章と説明的文章で、解答形式は記述（必ず含む）と選択とがあります。

理科

「生物と環境」分野（約30%）、「物質と変化」分野（約30%）、「運動とエネルギー」分野（約30%）、「地球と宇宙」分野（約10%）を出題します。実験・観察から考えるものを出題します。解答形式は選択、記述（説明形式を含む）、作図があります（定規・コンパスは不要）。理科用語については、漢字での解答を原則とします。

社会

大問は2題で、1題が歴史分野（約75%）、もう1題がテーマ問題（約25%）です。歴史分野は原則として6年生社会の教科書「上」を範囲に、テーマ問題は教科書「下」に関連する最近の国内・国外の時事問題から出題します。歴史分野、テーマ分野ともに、地図・資料を用いた出題があります。歴史用語・社会用語は教科書準拠の漢字解答とします。テーマ問題で説明形式の解答は、自分の「思い」や「考え」をどう表現しているかを採点対象とします。

B方式

【読解・表現】新聞や雑誌等の記事を題材とし、その内容について理解したことや、みずからの考えを記述する形式です。

【グループワーク】あるテーマについて、自分の考えをまとめ（5分）、グループになって話し合いをします（35分）。

【英語】英検®4級レベルを中心とし、10分程度のリスニングテストを含みます。

清泉女学院中学校

算数

1期・2期・3期ともに、四則計算・速さ・割合・面積・体積などの基本的な計算問題と文章題です。すべて解答のみ記入する形式です。出題傾向はこれまでと同じです。

国語

1期・2期・3期すべてに共通して、説明的文章と文学的文章を提示し、そこに設けられている設問に答えさせるという形式です。記述問題も出題しますが、比較的簡潔に答えられるものです。出題傾向はこれまでと同じです。

理科

実験・観察について考える問題が中心で、計算問題・記述問題もあります。ふだんから身のまわりの自然現象に興味・関心を持ち、なぜそういえるのかを考える習慣を身につけておくとよいでしょう。

社会

1期・2期ともに、地理・歴史・公民の3分野からおおむね2:2:1の割合で出題します。基本的な知識を問う問題とともに、グラフや地図を読み取る力、考える力を問う問題もあります。教科書の基本的な事柄を学習するとともに、地図帳を開く習慣をつけましょう。また、本や新聞、ニュースなどから、社会で起こっていることに目を向けましょう。

洗足学園中学校

算数

これまでとほぼ同様の方針で、基本的な知識や処理能力、応用力を見るため、さまざまな分野から出題します。考え方を記述する問題も出題し、部分点を与えます。配点は問題によって異なります。計算に時間を取られないよう、速く正確に解く練習も必要です。なお、2015年度入試より、大問を1題減らし、途中式を書く問題を、それまでの3問から4問に増やしています。

国語

説明文1題と物語文1題で、大問1題中の小問数は8問前後です。問題が少なめなので、じっくり取り組んでください。大問ごとに3問程度の記述問題があります。記述の分量は行数で指定します。1行に25字程度書くことを想定していますが、多少の増減は構いません。解答文は完結させてください。内容により、部分点も与えています。

理科

大問は、例年どおりに物理・化学・生物・地学の4分野より1題ずつ出題します。各分野の出題割合（配点）はほぼ同じで、75点満点中それぞれ18点前後です。各小問の配点は難度により異なり、各1～4点です。各回とも記述問題を2問ずつ出題します。漢字指定の問いもあるので注意してください。

社会

これまで同様、地理・歴史・公民の3分野より大問1題ずつの出題です。配点は3分野ほぼ均等で、各大問は10問程度の小問で構成しています。地名・人名・法律名などの社会科用語は漢字で正確に書けるようにしておいてください。文章で答える記述問題は部分点も与えています。どの分野も基本事項をまんべんなく理解していれば、十分に解けると思います。

捜真女学校中学部

2019年度はS試験を取りやめ、第1回から第5回の筆記試験と対話学力試験を行います。午前中実施の第1回と第3回は2科4科選択、その他の筆記試験は2科、加えて受験生ご本人の面接があります。対話学力試験は面接形式で学力試験を行うもので、基礎学力・表現力・発想力を問う試験です。帰国生入試は12月15日と2月2日の2回実施します。

算数

計算などの基礎力を問う問題があり、次いで標準的な文章題、図形に関する問題を出題します。第1回から第3回までの試験の後半数題は、設問を分けて小刻みに得点できるようにしています。途中の考え方を問う設問もあります。

国語

説明的文章・随筆・小説などの文章の読解が中心です。自分のことばで説明する問題や、少し長めの記述を求める問題もあります。さらに、言語知識・常識・教養を問う問題も出題します。日ごろから「ことば」に関心を持って勉強していきましょう。

理科

物理・化学・地学・生物の4分野から幅広く出題します。計算問題、グラフを扱う問題、また、教科書にある実験・観察に関する問題にも慣れておきましょう。初めて見るような内容の問題もあります。問題文を正確に読んで答える練習もしましょう。

社会

今までと同じように小学校の教科書、受験用の基本的な参考書等に出てくる基本的な問題を出題します。歴史では時代の特色、人名、できごと、地理では47都道府県の特色や位置、産物、県庁所在地などをしっかり確認しておくことが必要です。政治・経済的分野を中心に、資料を読む力・思考力・表現力を見ていきたいと思っています。これについては、やさしい発想で、かついいねいに解答してほしいと願っています。

日本女子大学附属中学校

算数

例年どおり、さまざまな分野から出題します。計算問題は、速く正確に解けるよう練習しておきましょう。応用問題では、問題文をしっかりと読み、整理することが重要です。グラフや図と問題文の状況を対応させて考えましょう。どのような問題もパターンとして認識せず、一つひとつよく考えて答えに至る過程を意識しながら解く練習をしておきましょう。

国語

さまざまな種類の文章を読み、慣れておいてください。長い問題文は、内容を把握しながらある程度のスピードで読む力が必要です。自分のことばで書くことを求める問題を毎年必ず出題していますので、自分の表現で文章が書けるよう練習をしておきましょう。小さい問い掛けをヒントにして文章全体から総合的に考える習慣をつけるとよいでしょう。

理科

例年どおり、すべての分野から出題します。実験や観察に基づいて考える問題や、図・表やグラフなど、与えられたデータをもとに考える問題を主に問題を出題します。問題を解くには基本的な知識や計算力が必要となるので、教科書を中心にしっかりと身につけておきましょう。そのうえで、学校での実験には積極的に参加し、実験・観察の経験を多く積んでおきましょう。

社会

例年どおり、すべての分野から出題します。都道府県名、歴史上の出来事や人名など、基本的な用語は漢字で書けるようにしておきましょう。そのうえで、それぞれの時代や地域のイメージを持ち、一問一答式の覚え方をするのではなく、さまざまな事柄を関連づけて理解しましょう。教科書の図表や統計などの資料も、そこから何が読み取れるのか再確認してください。また、世の中の重要な出来事にも関心を持ちましょう。

聖園女学院中学校

算数

小数・分数の四則演算を含む計算問題、単位や速さに関する穴埋め問題を出題します。文章題・平面図形・立体図形・関数など、幅広い分野から出題します。

国語

大問は4題で、**1**は「漢字の読み」、**2**は「漢字の書き取り」、**3**と**4**は原則として「論理的な文章」や「文学的文章」という構成です。記述問題は、解答内容による段階点を与えています。文末処理や誤字による減点があります。

理科

物理・化学・生物・地学の4分野すべてから10点ずつ出題し、ほかに時事などの総合問題の10点を加え、計50点となっています。基本的な問題のほか、物理・化学分野を中心に、実験を題材に考察したり、計算をしたりする設問もあります。小学校の教科書に記載されている知識を基礎にして、提示されたデータや資料を読み取り、「考えて解く」という設問もあります。

社会

配点は地理的分野が15点、歴史的分野が20点、公民的分野が15点です。問題数は、「2点問題×19問」＋「3点問題×4問」の計23問の50点満点です。基礎的な知識を問う問題のほか、地図・グラフなど、資料を読み取って解く問題や記述問題も出題します。2018年度入試でも、学校説明会等で配布している「地図」からも出題しています。記述問題は漢字での解答を原則としているため、解答がひらがなで記入されている場合は減点対象となります。地理的分野は、とにかく地図をよく見ましょう。歴史的分野は、各時代の特徴をしっかりとらえるようにしてください。また、公民的分野では、幅広く社会に関心を持つことをお勧めします。いずれの分野も教科書を中心に学習を進め、可能であれば、過去問を解いてみましょう。

英語

大問は、リスニング問題、文転換問題、短文穴埋め問題、対話文問題、グラフ読解問題、広告ポスター読解問題、長文読解、英作文問題の八つで構成されています。聞く・読む・書く（話す）技能にかかわる問題をバランス良く出題する予定です。日常のことや、身の周りのことなどに関し、英語で表現することを日ごろから意識し、聞く・読む・書く（話す）習慣をつけておくとよいでしょう。音声とともに学習してきた知識を、正確に表現できるよう、外部検定試験などの問題集で演習しておくことを推奨します。学習した英文がどのような場面で発話されるかイメージしながら理解力を高め、外国語を通じて世界への関心を広げてください。

総合力

変更1：2種類の試験（40分×2種類）を60分に一本化します。

変更2：論述問題を2題から1題にします。

総合力(A)基礎知識や日常につながりのある内容を教科の枠を越えて出題するものと、(B)唯一の正解がない課題に対して、筋道立てて考え、表現できる力を測る問いを出題するものがあります。(A)は75点分で、穴埋め問題や選択問題（いずれも解答がある程度決まっているもの）が中心となりますが、それらに関連して具体例を挙げたり、自分の考えを1～2行程度で書いたりする問題も出題する予定です。理科社会に関しては小学校での学習範囲とお考えください。会話文や資料、図などを題材として、20～25個程度の問いを予定しています。また、(B)は25点分で、課題に対して自分の意見を論理的に表現する、いわゆる論述式の問題です。解答欄はA4サイズで20行弱になる予定です。字数制限はありませんが、欄内に解答を収めるようにしてください。採点基準は本校のホームページ上に公開しています。

「受験生の持っている力を従来型の試験とは別の角度から引き出したい」という思いを持って、聖園女学院では総合力テストを実施しています。小学校や塾での学びはもちろんのこと、読書・ご家族や友人との会話・ニュースで見聞きしたことなど、これまで蓄えてきた知識や経験すべてが総合力テストでは役立ちます。想像力や発想力も大切です。これからも世の中で起きているさまざまな事象にアンテナを張って過ごしてください。

横浜女学院中学校

算数

2019年度入試では、計算問題が4問、基本問題が6問、資料問題が1問、応用問題が大問として3題です。資料問題は、グラフや表などの資料を分析し、計算式を導き出していく資料分析問題です。応用問題（大問）は、大問3題にそれぞれ小問3問ずつの計9問です。出題分野は、整数に関する問題、場合の数に関する問題、平面図形に関する問題を予定しています。小問の1問目は基本問題、2問目は、問題文をよく読み、きちんと考えれば正解にたどりつけるような問題、3問目は、論理的な思考力が必要になってくる場合もあります。全体的に考えやすい問題にしています。計算問題は、整数・小数・分数の四則計算です。解き始めの計算問題では、計算の順序を正しく行えるか、分数や小数の計算をきちんと行えるかを見る標準的な問題です。基本問題（小問）は、いろいろな分野の基本を問う問題です。割合や比、いろいろな特殊算、数の性質、場合の数、平面図形、空間図形からの出題予定です。資料問題と応用問題（大問）では、記述式で中間点を設け、式はもちろん、図や文章などさまざまなものに部分点をつけています。あきらめずに正答に導く努力を解答用紙に表してください。そのため、解答用紙もA3判の大きさにしています。

国語

2019年度入試では、「漢字」「論理的な文章（説明文）」「文学的な文章（物語・随筆）」の3分野から出題します。「漢字」は、200字程度の文章の中で、「読み・書きの問題」4問、「誤字訂正問題」1問を出題します。「論理的な文章（説明文）」「文学的な文章（物語・随筆）」では、まとまった分量の文章を出題します。本文を正確に読んで内容がつかめているかを問う問題が大半となります。本文の中心となっている事柄を押さえながら読んでいけるようにしてください。また、本文から読み取った事柄を自分のことばにして、30～40字程度でまとめる問題も出題します。100字以内の記述問題では、問題解決的な思考力を問う問題を出題します。自分の考えや意見を記述できるようにしておいてください。

理科

2019年度入試では、試験時間は30分、配点は60点、試験問題はカラー印刷です。出題分野は、物理・化学・生物・地学の4分野から均等に大問として4題出題します。出題形式は、知識問題、会話文を読んで解答する問題、表やグラフを見て解答する問題、計算問題、実験に関する問題などとなります。「記述問題」も1題出題します。基礎的な知識を組み合わせたり、資料から読み取ったりして、柔軟に考えることで、正解に導くことができる問題を出題します。

社会

2019年度入試では、試験時間は30分、配点は60点、試験問題はカラー印刷です。地理的分野・歴史的分野・公民的分野すべてから出題します。「漢字指定」の問題では、ひらがなでの解答や漢字の間違いは不正解になります。「記述問題」も1題出題します。基礎的な知識を組み合わせたり、資料から読み取ったりして、柔軟に考えることで、正解を導くことが

できる問題を出題します。

英語

2019 年度入試では、面接に加え、リスニングと口述描写を課します。面接では、英文の音読とその内容についての質問、さらに本文の内容も踏まえて「自分はどう考えるか」を問います。英文の難度は、英検®3 級の 2 次試験に用いられる英文とおおむね同等です。リスニングでは、短い英文を聞き、それに合う選択肢を選びます。英文・選択肢とも英語です。難度は英検®4 級の 1 次試験とおおむね同等です。口述描写では、絵を見てその状況を英語で説明します。示される絵の難度は、英検準 2 級の 2 次試験で用いられるものとおおむね同等です。採点の基準は、「意味が伝わるかどうか」を重視します。「とにかく話してみる」姿勢を大切にしてください。

横浜雙葉中学校

算数

一行問題を数問と、大問を数題出題します。計算問題や面積・体積の測定、割合と比、関数とグラフ、図形の性質など、特定の分野にこだわらずに、問題レベルも基本から応用まで幅広く出題します。これにより、基本事項の定着度、思考力や応用力、論理性を測ります。一部の問題では、途中の式や考え方を答案に書いてもらいます。問題によっては部分点を与えることもあります。

国語

漢字の読み書き・ことわざ・慣用句・敬語、その他のことばの問題と、読解問題 2 題を出題します。ことばの問題では、漢字の読み書きをはじめとして、その場の文脈に合った用法・使い分けの整理が必要です。文章読解では、基本的語彙の理解や文脈的理解に立脚した正確な読解を求めます。さらに、それを自分のことばで表現できる力を身につけましょう。なお、記述問題においては、部分点を考慮しています。

理科

「基礎的な知識力・理解力などとともに、観察・実験の過程における科学的な思考力」「学習内容を日常生活と関連づけて理解する力」を見る問題を出題するように心がけています。物理・化学・生物・地学の 4 分野から出題し、総合的な力も求めます。解答の形式は、記号や用語だけでなく、図を描く、記述するなど、多様になるよう工夫します。その場合、部分点を考慮します。

社会

地理・歴史・公民の 3 分野からほぼ均等に出題します。地理は日本のさまざまな地域の自然環境、産業、貿易などについて、歴史は日本の歴史上の事件、人物、政治、文化、外交など全般から、公民は政治の仕組み、日本国憲法、身近な現代社会の事柄などについて出題します。漢字で書くように指定されている用語は漢字で答えるようにしてください。理由や背景を説明する問題では部分点を考慮しています。